

### 1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2893700050		
法人名	社会福祉法人 博愛福祉会		
事業所名	サンホームみかづき グループホーム		
所在地	兵庫県佐用郡佐用町志文515番地		
自己評価作成日	令和3年9月15日	評価結果市町村受理日	令和4年3月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/28/">http://www.kaigokensaku.jp/28/</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 H.R.コーポレーション		
所在地	兵庫県西宮市甲陽園本庄町6-25-224		
訪問調査日	令和3年9月26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

花と緑に囲まれた自然豊かな環境の中、動物たちと共存できる家庭的で明るい雰囲気のある事業所です。  
 自然に囲まれた環境の中、動物達と共に生活できる明るい事業所です。季節に応じた野菜や果物を頂く地域の方々から温かい目で見守って頂いています。家庭的な雰囲気の中、利用者の経験や有する能力を活かして頂きながら、花や野菜を育てる楽しさや動物達との触れ合いは生活に潤いを与えています。事業所は、併設している小規模多機能と廊下伝いとなっており、ご利用者様は自由に往来し交流されています。

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地域福祉の拠点として地域交流・地域貢献を継続している複合施設内のグループホームである。桜並木や四季折々の自然が感じられる環境の中、家庭的で季節感・生活感を大切に生活空間で、犬や猫と一緒に過ごせる動物介在活動を取り入れている。コロナ禍のため、外部交流や外出は減っているが、散歩・ドライブ・菜園やテラスを活用した活動等で戸外で過ごす機会を確保し、食を楽しむ様々な機会作り、100歳体操・脳トレ・制作・家事参加等、日常生活の中で楽しみや役割を持てるよう取り組んでいる。施設内の連携体制、事業所内の会議・研修・委員会活動・避難訓練の体制を整備し、安定した運営とサービスの質向上に取り組んでいる。職員の定着もよい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および第三者評価結果

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所内の目に留まりやすい場所に理念を掲示している。理念を毎朝唱和し、意識づけを図り実践に繋げている。課題や問題があれば理念に基づき行動・実践するように努めている。	法人共通の理念「日の出プライド」と、サンホームみかづきの施設理念の中に、地域密着型サービスの意義・役割を明示している。ユニット内の常に目にする場所に掲示し、通常は毎朝唱和し、共有を図っている。理念をもとに事業計画を策定し、実施状況を合同会議で振り返りながら理念の実践に向け取り組んでいる。個人の目標管理の中でも理念にもとづく目標設定を行い、定期的な面談時に振り返る機会を設け実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍であるため感染予防に努めながら、車中からのチューリップ・ルピナス・ひまわり等の見学や文化展への出展などできる範囲で地域とのつながりを継続している。	通常は、小学校の行事・地域の文化展等に出かけ、施設や事業所にボランティアや実習生の来訪があり、施設行事に地域からの参加がある等、積極的に地域交流を行っている。コロナ禍で制限のある中、感染予防対策をとりながら、季節の花を観賞するドライブに出かけたり、文化展に出展して参加する等、地域交流が継続できるよう工夫している。施設全体の取り組みである地域包括支援センターランチ活動や24時間見守りサービスに事業所も参加し、地域貢献に取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	週1回定期的に事業所間ミーティングに参加し情報の共有を図り相談に素早く対応している。		

サンホームみかづき グループホーム

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2カ月に1回、第3金曜日に定期開催を行い、利用状況・運営状況・行事等を報告し、情報提供や意見交換を行っている。又、第三者評価の結果について助言を頂き、サービスの質の向上・改善に努めている。	利用者・家族代表、地域代表(民生委員)・町職員・地域包括支援センター職員・知見者(自治会長)を構成メンバーとし、2ヶ月に1回開催している。昨年度から、コロナ禍の状況に応じて、会議開催と書面開催を行っている。会議では、資料をもとに、利用者の状況、行事等事業所の取り組み、また、事業計画や第三者評価等時々の内容について報告を行い、参加者と意見・情報交換を行い、運営やサービスに活かせるよう取り組んでいる。書面開催時には、資料を手渡しして報告を行い、意見・質問・情報等の把握に努めている。議事録のファイルを玄関カウンターに設置し、公開している。	書面開催の際は、配布資料に意見・情報等を記入できる書面を加え、出された意見・情報等を次回の会議でフィードバックし、書面開催でも意見・情報交換が行えるよう工夫してはどうか。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	佐用町に長年お願いしていた家賃助成制度が今年度より開始となった。2カ月毎の運営推進会議等にて必要な支援方法や情報交換を行い、地域の高齢者の為に連携が図れるように取り組んでいる。	運営推進会議を通して、町職員・地域包括支援センター職員に利用者の状況や事業所の取り組みを伝え、また、地域の高齢者支援について協力関係を築いている。町との連携により、今年度から家賃助成制度の開始が実現している。感染予防対策・ワクチン接種・物品支給等についての情報提供や協力を受け、事業所での感染予防対策や運営に反映している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束等適正化委員会を3か月に1回開催し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。また合同会議にて接遇マナーについて定期的に研修を行い日々の振り返りを行っている。玄関については安全のため施錠している。	「身体拘束適正化指針」を作成し、身体拘束をしないケアを実践している。「身体拘束等適正化委員会」を3ヶ月に1回開催し、委員だけでなく当日出勤の職員も参加している。委員会では、利用者の事例を挙げ、リスクに対して拘束しない対応方法等を検討している。委員会の内容は、議事録の回覧により周知を図っている。年間研修計画に沿って、身体拘束適正化についての研修を、令和2年度は施設の全体会議で、令和3年度は事業所の合同会議で実施している。玄関は安全のため施錠しているが、希望があればテラス・菜園・敷地内など戸外に出ることができ、閉塞感を感じない環境である。	委員会の内容について、議事録の回覧等による周知が明確になる工夫が望まれます。

サンホームみかづき グループホーム

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	不適切ケアについて合同会議にて勉強会を行い、ケアの質を高めるよう周知徹底している。複数でのケアをすることにより、お互い注意し合うことで防止に取り組んでいる。	虐待防止についても、身体拘束適正化と同様の方法で「不適切ケア」研修を実施し周知徹底を図っている。「接遇マナー」研修では、寸劇を用いて、不適切な言葉や対応について具体的に学べるよう工夫している。また、虐待に関するチェックリストを用いて職員一人ひとりが振り返りの機会を持ち、集計結果を合同会議で職員にフィードバックして不適切ケア防止の徹底を図っている。管理者層の職員が日頃から話しやすい職場環境づくりに努め、法人としてもストレスチェック・職員アンケート・相談窓口の設置を行い、職員のストレスや不安がケアに影響しないように取り組んでいる。	
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	新人研修等で成年後見人制度について学ぶ機会を設けるとともに資料をファイリングし、いつでも見れるよう事務所に置いている。必要に応じて制度の活用が出来るように支援体制を整えている。	権利擁護に関する制度について、新人研修で学ぶ機会を設けている。また、外部研修に参加した職員からの資料を回覧し、情報共有している。現在、制度利用について家族からの相談があり、資料を提示して説明し、制度利用に向けた支援を行っている。今後も制度利用の必要性や家族からの相談があれば、管理者層の職員が窓口となり支援する体制がある。	
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には管理者又は計画作成担当者が事業所の様子や口頭と契約書による文章で説明している。不安や疑問があればすぐに応じ、ご本人とご家族に丁寧に時間をかけて説明し、同意を得るようにしている。また、問い合わせにその都度対応している。	契約前の自宅への訪問時や見学時に、利用料金等の契約内容について説明を行い、利用者・家族の思いや意向を聴くようにしている。契約時には入居申し込み書・契約書・重要事項説明書・指針・同意書等に沿って説明し、文書で同意を得ている。医療・緊急時対応・重度化対応については特に詳しく説明し、不安の軽減に努めている。契約内容の改正時には、改定内容を説明をした書面を郵送し同意を得ている。	

サンホームみかづき グループホーム

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月の請求書の送付時に近況報告を行うなど、家族との関係作りを大切にしている。又苦情に対する窓口を設け話しやすい環境づくりに努めている。頂いたご意見に速やかに対応策を検討し、改善できるように取り組んでいる。	コロナ禍のため家族の面会が減少しているが、家族の来訪時・電話連絡時・毎月の近況報告文により利用者個々の近況を伝え、広報誌・在宅新聞で施設・事業所の行事等を伝え、家族から意見や要望が出やすいように取り組んでいる。現在は意見・要望は出ていないが、家族からの連絡等については、「ケース記録」に入力し「申し送り」で共有している。運営推進会議に家族代表の参加があり、外部者に意見を表す機会も設けている。	
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回合同会議を開催し、意見交換を行っている。また人事考課制度を取り入れ、評価結果をもとに年2回面接を行い意見交換の機会を作っている。日々の勤務の中で職員の思いを聞き、お互いに連携を取れる体制作りをしている。	月に1回、小規模・グループホーム合同会議を行い、職員の意見・提案をサービス・業務・運営などに反映できるよう取り組んでいる。会議次第と資料を配布し、議事録は回覧し、参加できなかった職員も含め周知を図っている。日々の検討事項は、随時カンファレンスで検討し、内容や決定事項を「ケース記録」や「事務連絡」に入力し、「申し送り」で共有している。年に2回人事考課面談を行い、個別に意見等を聴く機会を設けている。面談内容を記録し、個別に対応したり、合同会議で検討する等、内容に応じて対応している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課制度を活用し、個々の努力や実績・勤務状況を把握し、得意な分野で能力を発揮できるよう努めている。職員の資格取得に向け、研修の場を設けている。		

サンホームみかづき グループホーム

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人職員や異動後の職員にはOJTを取り入れ、チェック表にて目指すべき姿を明確化した上で技術の習得ができるよう指導している。施設内外研修の機会を確保している。また、月1回合同会議にて勉強会を行っている。目標管理シートを活用し、個人目標の進捗状況を確認・指導している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループ内の研修に参加し、交流できる機会を設けている。また、他事業所の職員が来所された際、同業者との交流、意見交換を行っている。		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初回の自宅訪問や見学に来られた際は、話しやすい雰囲気づくりに努め、ご本人・ご家族からの思いや希望を聞くようにしている。またご本人・ご家族や関係事業所等からの情報収集を行うように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用にあたっては、自宅や事業所等で事前面接を行い、ご家族から介護に対しての不安や悩みを聞き、家族の思いや要望を受け止めるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族の思いを伺いながら、その方にとって一番良いサービスは何か、他の事業所を含めて検討している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活歴やご本人の話を聞き、状況把握をし、生活の場で自分を活かす場面を作れるように配慮している。家庭的な雰囲気の中で利用者と職員が協力しながら自立した生活ができるように支援している。		

サンホームみかづき グループホーム

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ホームでの生活状況を電話や面会時等に報告する中でご家族に意見や思いを伺いながら、一緒に支援できるように努めている。		
20	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	新型コロナウイルス感染症予防のため、オンライン及びガラス越しでの面会に変更し、関係継続に努めている。ご家族、友人からお手紙を頂く機会が増えている	通常は、家族・知人の来訪、施設内の他事業所の利用者との交流、地域行事への参加、外出行事等を通して、馴染みの人や場所との関係継続を支援している。コロナ禍のため、交流や外出の機会は減少しているが、オンライン面会・ガラス越しの面会、電話・手紙・年賀状、ドライブによる季節の外出、家族との馴染みの場所への外出等、感染予防対策を行いながら、馴染みの人や場所と関係継続ができるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士がレクリエーションや家事手伝い等を通じお互いに声を掛け合い、楽しいひと時を過ごして頂いている。必要があれば、利用者同士の相性を把握し、席の配置やグルーピングを行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	病院や他事業所からの問い合わせがあれば、わかる範囲で伝えている。また、退院後の利用についても相談に応じている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中で利用者の行動・言動や表情により思いを把握できる様に努めている。また、職員それぞれの気づきを記録に残し情報の共有を行っている。ご家族からも希望や意向を伺い対応している。	入居時に把握した利用者の思いや暮らし方についての情報を、フェイスシートの「本人の希望」「現在の生活」欄に記録し、毎年更新している。日々のコミュニケーションの中で把握した思いや意向は「ケース記録」に記録し、「申し送り」で共有し、支援や介護計画に反映できるよう取り組んでいる。把握が困難な場合は、問いかけ方法を工夫したり、表情・反応・行動から汲み取ったり、家族の意見や情報を参考にすると等、把握に努めている。	

サンホームみかづき グループホーム

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24			○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日常生活からの情報や面会時ご家族から知り得た情報をフェイスシートに都度記入し、職員間で情報を共有している。		
25			○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の暮らしを観察・記録したものを基にカンファレンスを行い、総合的・客観的に支援内容を検討し、意欲の向上に努めている。また、カンファレンス内容を申し送り簿にて伝達している。		
26	(13)		○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人やご家族の要望を伺い状況により主治医等に相談、助言を頂き、アセスメントから見直し迄のサイクルの実践を行っている。また、毎日のモニタリングにて些細な変化がないか確認し計画立案に結び付けている。	フェイスシート・長谷川式認知症スケール等をもとにカンファレンスを行い、初回の介護計画を作成している。介護計画の内容を記載した「モニタリング表」に、介護計画にもとづいたサービスの実施の有無を毎日記入することで、職員が計画内容を理解し、実施状況を把握している。サービス全般をケース記録に記録し、ケース記録の種別欄にも介護計画の番号を記載している。日々のモニタリングから、1カ月の評価を行い、「評価表」に記録している。必要時には随時、定期的には3ヶ月毎に介護計画の見直しを行っている。見直しの際は、利用者・家族の要望、主治医の所見(看護師が集約)、「評価表」等をもとに、多職種によるカンファレンスを行い検討している。フェイスシートは、定期的には年度初めに更新している。	介護計画見直し時には、再アセスメントを行うことが望まれます。フェイスシートに加え、利用者の生活歴・生活習慣・趣味・嗜好等、人物像を把握し、個別支援に活用できる情報シートを作成してはどうか。
27			○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画に沿って記録している。会話をそのまま記録する等日々の様子が分かるように取り組んでいる。また1か月のまとめ・モニタリングを行い情報の共有や介護計画の見直しに活かしている。		
28			○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族の生活上の変化を的確に把握し、その時々に応じて相談を受け、柔軟なサービス提供ができるように努めている。		



サンホームみかづき グループホーム

自己 者	第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	併設の居宅介護支援事業所や地域包括支援センターより情報を頂く等、情報把握に努めている。利用者やご家族の意向に応じて、地域住民・ボランティア等の協力を得ている。		
30	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時、利用者やご家族の希望を確認し、かかりつけ医を決定し、体調不良時には、受診や往診を依頼、又通院介助も行っている。家族が付き添い受診する場合も施設での状況を説明し、結果を教えて頂く等、情報の共有を図っている。	契約時に利用者・家族に希望を聞き、希望に沿った受診を支援している。今までのかかりつけ医を継続している利用者もいる。定期的な内科・心療内科診・歯科の往診、必要時の皮膚科の往診を受けられる体制がある。他科については、通院で受診している。事前のFAXや往診記録への記載で、また、往診時は看護師が立ち会い、医師に情報提供し連携している。受診については、「日誌」「往診記録」「ケース記録」に適宜記録し、「ケース記録」の「申し送り」で職員間の共有を図っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週木曜日の医療職会議に看護師が参加し、情報の共有を図っている。また、毎日夕方に1日の様子を看護課に報告し、夜間の緊急時の対応がスムーズに行えるようにしている。年1回、検診を行い健康管理に努めている。		
32	(15)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	安心して治療できるように入院中も定期的に地域連携室に問い合わせを行い、入院中の状態を把握している。また、できる限り退院前カンファレンスに参加し、退院に向けて、職員間で情報を共有し、受け入れ態勢を整えている。	入院時には、「入居者情報提供書」で病院に情報提供している。通常は、入院中は面会に行き、利用者の状況確認や病院関係者と情報交換を行っている。コロナ禍のため、主に電話で、地域医療連携室等と情報交換し早期退院に向け支援している。退院前カンファレンスが開催されれば参加し、病院の各専門職者から情報提供を受け、事業所内でカンファレンスを行い、退院後の支援を検討している。入院中の情報は、「ケース記録」に記録して「申し送り」で情報共有している。	

サンホームみかづき グループホーム

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(16)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時、「重度化した場合における対応に係る指針」を基に、ご本人や家族へ説明し、終末期の意向を確認している。常に今後考えられる問題を含め、家族と話し合い終末期に向けての準備ができるようにしている。状況に応じて特養への移動を勧めている。	重度化・終末期に向けた事業所の方針について、契約時に「重度化した場合における対応に係る指針」をもとに説明し、同意を得ている。重度化・終末期を迎えた段階で、「緊急時の延命医療の同意書」で意向を確認している。家族参加でカンファレンスを行い、主治医の所見を看護師が説明し、事業所から出来ること出来ない事を説明している。家族の意向をもとに方針を統一して支援を行い、利用者の現状に適したサービスへの移行も援助している。家族の意向、利用者の状態や支援の経過は、「ケース記録」に記録し共有している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルを作成し、施設内研修・訓練を行っている。急変時に早期対応ができるよう合同会議にて看護師の指導を受けている。		
35	(17)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に併設施設と合同で夜間帯を含む避難訓練、防災訓練を行っている。また、水害・土砂災害に係る避難計画や事業継続計画(BCP)マニュアルを基に災害時の対応等について再確認を行い緊急時に備えている。地域住民・消防団と協力体制を整えている。	施設の防災委員会が作成した年間計画に沿って、毎月、施設合同の避難訓練・防災訓練を行っている。場所や時間帯など様々な想定で訓練を実施し、職員は毎月参加して施設内の協力体制を確認している。利用者参加で行うグループホーム主体の訓練は年2回実施し、利用者も参加している。「水害・土砂災害に係る避難計画」を作成し、各避難経路を事務所に掲示し周知を図り、今年度は訓練も計画している。年間研修計画に入れ、「災害時対応について」の研修を毎年実施している。自治会を通して地域住民・消防団と協力体制を整え、連携を図っている。施設は地域の福祉避難所にもなっている。備蓄は、施設の備蓄倉庫で合同で行い、栄養士が管理している。	訓練実施後は、参加者が感想や課題を書いたアンケートを提出している。訓練内容やアンケートの集計等をまとめて訓練実施記録を作成し、回覧やスタッフ会議等で、参加できなかった職員にも周知する取り組みが望まれます。

サンホームみかづき グループホーム

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者のプライドや誇りを傷つけない言葉かけや問題となる様な言動がないか、合同会議やカンファレンス等で振り返りを行っている。個人の性格や生活背景を把握し、尊厳を傷つけないように注意している。	「不適切ケア」「接遇」「認知症ケア」等の研修の中で、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応について学ぶ機会を設けている。合同会議の中でも、注意喚起している。今年度は、言葉かけや対応についての職員アンケートを実施し、振り返りを行う取り組みを計画している。個人記録類は鍵のかかる書庫に保管し、写真・動画の使用については契約時に文書で同意を得ている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者個々の能力に合わせ、ご本人の意思に従い無理強いせず、1つ1つ確認しながらコミュニケーションをとっている。それぞれのペースに合わせて意思決定ができる場面を作り納得できる生活を送って頂けるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の生活歴、背景を理解しながら支援している。利用者の能力、体調、希望に沿って、1人1人のペースを大切に支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎朝の着替えの際に同じ衣類にならないように支援している。家族の付き添いで馴染みの美容院に行かれたり、施設に来所される美容師による散髪を利用して頂いている。		

サンホームみかづき グループホーム

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	専用の箸・湯呑みを使い、思い思いのペースでゆったりと一般家庭のような落ち着いた雰囲気ですべてをいただいている。	施設の厨房から食事の提供を受け、炊飯・盛り付け・利用者個々の食事形態への対応を各ユニットで行っている。献立は、日頃から季節感や彩りに配慮され、行事や誕生会には特別な献立で提供されている。事業所内で「料理クラブ」を企画し、菜園で獲れた野菜や果物等を活用して、手作りおやつ・手作りおかずを企画し、可能な利用者が参加している。コロナ禍のため外食を休止しているが、地域の食堂に弁当を発注してテラスで食べる等、変化が楽しめるよう取り組んでいる。箸や湯呑は利用者個別のものを使用し、通常は職員も一緒に食事を摂り、家庭的な雰囲気を大切にしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士指導の下、栄養バランスの摂れた食事になるように工夫し、食事形態も利用者の状態に応じた対応をしている。食事・水分量等をチェック・記録し、摂取量が低下している場合は好きな物を召し上がって頂く等配慮している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご本人に応じた口腔ケアを行い、就寝前は歯磨き・うがい・義歯の手入れ後、義歯を預かりチェックしている。火・金曜日は洗浄液に浸している。歯科衛生士による口腔ケアを月2回行い異常があれば歯科往診にて診ていただいている。		

サンホームみかづき グループホーム

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄状況を記録している。トイレでの排泄を基本とし、誘導や紙パンツの必要性の有無等の確認を行い、トイレでの排泄ができるように支援している。夜間は睡眠状況に配慮しながら、必要に応じて声かけを行っている。	自立に近い状況からベッド上でのオムツ交換まで、排泄の自立度に個人差が大きい状況である。チェック表の排泄欄で、利用者個々の排泄状況や排泄パターンを把握し、昼間はトイレでの排泄・排泄の自立に向け支援している。夜間は安眠にも配慮し、個別の方法で対応している。介助方法や排泄用品について検討が必要な場合は、カンファレンスを開いて検討し、「ケース記録」で経過を共有しながら現状に即した支援につなげている。扉を閉める、誘導時の声かけや報告時の配慮等、羞恥心・プライバシーへの配慮を周知している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表で確認し、薬に頼らず自然排便が叶うように、食事や飲み物を工夫している。又散歩や軽体操を行ったり、腹部マッサージやホットパック・足浴を行う等状況に応じて対応している。		
45	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2回を基本とし、ご本人の希望や体調に応じ個別対応を行い、リラックスできるように支援している。季節感を感じる菖蒲湯・柚子湯等も行っている。	利用者個々の体調やタイミングに応じて入浴できるように支援している。週2回の入浴を基本とし、チェック表の入浴欄で入浴状況を把握している。機械浴が2カ所・一般浴槽が1カ所あり、施設には特殊浴槽があり、利用者個々のADLに応じた浴槽で、安全に入浴できる設備が整備されている。入浴を嫌がる場合は、タイミングや声かけの方法等を工夫し、無理強いせず入浴できるように支援している。しょうぶ湯・ゆず湯を行い、季節感も取り入れている。	

サンホームみかづき グループホーム

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46			○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中に、身体を動かして頂くことで睡眠時間の確保に努めている。又その方の生活習慣や状況に合わせて、寝具の選択や空調管理を行ったり、休憩時間や就寝・起床時間に考慮している。		
47			○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋や情報をケース記録と一緒に保管し、すぐに確認できるようにしている。服用の際には名前・日付・時間等を確認し、適切な服薬支援を行っている。服薬内容に変更があれば、申し送りにて周知している。		
48			○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴、趣味や習慣、できることを把握することでご本人の楽しみ等、張り合いのある生活が送れるように支援している。菜園を作り、収穫された野菜を食卓にのせる事は利用者の楽しみの1つとなっている。		
49	(22)		○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	日常的な散歩以外にテラスでの外食・花見や紅葉等の行事を取り入れ外出する機会を設けている。又、外食や散髪等、家族と調整を図り、感染対策をしながら出かけられるよう支援している。	コロナ禍のため、例年参加している小学校の行事や地域行事、外食ツアー等は休止している。感染予防対策を徹底し、日常的な周辺の散歩や季節の花(チューリップ・ルピナス・ひまわり・菖蒲)を鑑賞するドライブは継続している。テラスや菜園を活用し、お茶や食事を楽しんだり、花や野菜を育て収穫する等、戸外で活動する機会を設けている。また、時間帯や場所等を選び、感染防止対策をとりながら、家族との外出もできるよう支援している。	

サンホームみかづき グループホーム

自己 者 第 三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者・家族の希望に応じて金銭代行管理を行っている。		
51	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の希望があった場合、ご家族への配慮も忘れずに職員が取り次ぎ、直接話せるように支援している。手紙や年賀状等を書いて頂き、職員が預かり投函、又手紙が届いた際はご本人に手渡ししている。		
52	(23) ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	明るく広いリビングで、それぞれの居場所があり、穏やかに過ごして頂ける空間を作っている。リビングの大きな窓からは、桜並木など四季折々の景色が楽しめる。又、四季を感じられる花や季節を感じさせる置物を置いている。	採光がよい広いリビングはテラスに面しており、窓から見える桜並木や四季折々の自然の景色が楽しめる。テラスからも出られる庭に、樹木や花、菜園があり、花や野菜の水やりや収穫を一緒に行っている。室内にも季節の花や利用者と一緒に制作した季節に応じたちぎり絵の額を飾り、季節感を取り入れている。台所があり調理の音や匂いを感じられ、利用者の家事参加も支援し、生活感を大切にしている。各ユニットを自由に行き来でき、テーブル席・ソファ・冬はこたつが設置され、思い思いの場所で過ごせる環境である。動物介在活動を取り入れ、犬・猫と一緒に過ごすことができる。温湿度管理・換気・オゾン発生装置・掃除・消毒の強化等、衛生管理を徹底している。	
53	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う利用者同士で過ごせるよう数人掛けのソファやコタツを置き家庭的で温かい居場所作りに努めている。また、一人で本を読んだりテレビを観たり自由に過ごすことができるよう支援している。		

サンホームみかづき グループホーム

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や生活用品を持参頂くとともに、ご本人好みの物、観葉植物等を飾って頂く等、利用者個々の個性を大切にしている。また、身体状況や好みにより和室やベットの過ごして頂けるよう配慮している。	各居室にクローゼットと、8室には洗面台を設置している。家族の協力を得て、ベッド・箆笥・テレビ・仏壇・絵画・家族の写真等、使い慣れた家具や好みのものの持ち込みを勧め、居心地よく過ごせるよう支援している。居室入口の木製の表札と観葉植物により、自分の部屋がわかりやすいよう配慮している。利用者個々の動線に応じたベッドや家具の位置を考慮し、利用者が安全に自立した生活が継続できるよう支援している。担当職員を配置し、家族と連携をとりながら環境整備を行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレはトイレマーク、居室入口にはご自分の部屋とわかるように表札を下げている。各箇所の段差をなくし、トイレや廊下に手すりを設ける等安心して自立した生活を送れるように工夫している。		